

会社の未来に必要な事業承継 島根の現状と課題

独立行政法人中小企業基盤整備機構（中小機構）は、国が全国各地に設けた後継者不足などで事業継続に悩みを抱える事業者の相談窓口（事業引継ぎ支援センター）を支援している。同機構中国本部事業承継コーディネーターの酒井健次氏と島根県事業引継ぎ支援センター専門相談員生馬慎氏に現状や経営者の心構え、抱える課題などを語ってもらった。



中小機構中国本部
事業承継コーディネーター
酒井 健次氏

会社に関わる人全体の課題

— 島根県の事業承継の現状についてお聞かせください。

生馬 任せる親族がいない、社員の中にも適任者がいないと話されたある社員の減少や雇用の減少、人口の減少などもあって事業承継は喫緊の課題になって

います。又、県内の経営者の平均年齢は全国平均を上回り、高齢化が進んでいま

す。生馬 経営者の皆さんも潜在的には事業承継は重要な経営課題であるとの意識は持っておられながら実行に移せていない所が大きな課題となっています。「後継者がいない」「後継者が継がない」「後継者に継がせない」など「後継者が不在」の割合も全国平均を上回っています。

生馬 経営者の皆さんも潜在的には事業承継は重要な経営課題であるとの意識は持っておられながら実行に移せていない所が大きな課題となっています。「後継者がいない」「後継者が継がない」「後継者に継がせない」など「後継者が不在」の割合も全国平均を上回っています。

酒井 自分子どもに任せられないという理由の一つとして、企業経営が複雑、複雑化してきたことがあり、業界・事業内容・経営ノウハウに精通することの難しいとされています。

酒井 早急に取り組みを

酒井 早急に取り組みを

一番重要な将来計画



島根県事業引継ぎ支援センター
専門相談員
生馬 慎氏

— 事業承継が進まない理由は何でしょう。

生馬 経営者が「まだ自分ができる」「やらざるを得ない」「まだやれる」という感覚を持たれている。経営者自身が計画的に次代のこと

と経営者が気付かなければいけないというのが現状。従って、広く浅く「気づきセミナー」を行って、まず

酒井 経営者が「まだ自分ができる」「やらざるを得ない」「まだやれる」という感覚を持たれている。経営者自身が計画的に次代のこと

酒井 経営者が「まだ自分ができる」「やらざるを得ない」「まだやれる」という感覚を持たれている。経営者自身が計画的に次代のこと

酒井 経営者が「まだ自分ができる」「やらざるを得ない」「まだやれる」という感覚を持たれている。経営者自身が計画的に次代のこと

に気付いていないというこ

から事業承継を進めていく

生馬 中小機構にも応援

経営者・後継者のための事業承継セミナー

対象者 中小企業・小規模事業者の経営者ならびに後継者等
※現経営者と後継者の方が一緒に参加されると、より理解が深まります。

とき 2016年 2月10日(水)
ところ 島根県労働者福祉協議会(ろうかん)(島根県松江市御手船場町557-7)
詳細は <https://27jss.smrj.go.jp/>

事業引継ぎ支援センター・相談窓口

事業引継ぎ支援センター・事業引継ぎ相談窓口では、事業承継に関連した幅広い相談を受け付けております。お気軽にご利用下さい。
島根県事業引継ぎ支援センター 松江商工会議所 TEL0852-33-7501

中小企業基盤整備機構では、中小企業の円滑な事業承継をサポートするために、事業承継フォーラムやセミナーの開催、事業承継支援ネットワークの構築や、相談対応等を行っております。

<http://shoukei.smrj.go.jp/>